

平成 27 年度第 2 回石狩市厚田区地域協議会

【日 時】 平成 27 年 5 月 29 日（金） 18：30 ～ 19：35

【場 所】 厚田保健センター 1 階 多目的ホール

【出席者】 10 名（15 人中）

役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠	役 職	氏 名	出欠
会長	佐 藤 勝 彦	○	委員	小 山 玲 子	○	委員	前 田 和 也	
副会長	渡 邊 教 円	○	委員	今 光 江		委員	美 馬 康 子	
委員	大 黒 利 勝	○	委員	柴 田 志 寿 子	○	委員	盛 重 栄 司	
委員	小笠原 英史	○	委員	柴 田 肇	○	委員	築 田 敏 彦	○
委員	河 野 す み れ	○	委員	高 橋 敬 二	○	委員	吉 田 美 香	

※正副会長を除き、あいうえお順

自 治 会 ～ 厚田自治連合会 土門 隆一、発足自治会 伊藤 一治、古潭自治連合会 長 良幸
望来地区自治連合会 中西 元典、聚富地区自治連合会 本吉 俊一

活動団体 ～ 厚田区コミュニティ「ゆめクラブ」 河合 保郎
あつたの森支援の会「やまどり」 八木 久
あつたライフサポートの会、地域教育分科会 佐藤 勝彦
厚田資料室サポートの会、厚田アクアレーン実行委員会 大黒 利勝
厚田こだわり隊 吉田 一男

支 所 ～ 西田支所長

事務局 ～ 高田課長・相原主幹・永澤主任・寺内主任 地域おこし協力隊 ～ 小島隊員・沼倉隊員
(地域振興課)

【傍聴者】 1 名

- 【次 第】
1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 情報交流（リラックス タイム）
・地域の「ちょっといい話題」交流
 4. 報告事項
・
 5. 協議事項
・地域活動団体の活動について自治会と情報共有・意見交換
 6. その他
・次回会議の日程について
 7. 閉会

1. 開会

高田課長： 皆さんお晩でございます。平成27年度第2回目の地域協議会を始めたいと思いますけれども、美馬委員、今委員、盛重委員、前田委員、吉田委員の5名から所用で出席出来ないという事で、欠席の連絡を受けておりますので、報告をさせていただきます。

平成27年度第2回石狩市厚田区地域協議会を開会致します。会長から挨拶をよろしくお願い致します。

2. 会長あいさつ

佐藤会長： 改めてお晩でございます。もう良い気候になって、皆さん達は大変忙しい時期にどんどん入って来ているのに、地域の為に、汗をかきながらボランティアで協議会の出席をしていただいているという事で、大変感謝しております。今日はですね、一応、懸案でありました「道の駅」、「複合施設」ですね、その報告、審議を兼ねて、今日やりたいという風に思いますので、よろしくお願い致します。

3. 情報交流（リラックス タイム）

4. 報告事項

無し

5. 協議事項

・地域活動団体の活動について自治会と情報共有・意見交換

佐藤会長： 改めてお晩でございます。今日は地域協議会の委員さんだけでは無く、五連の会長さんにも出席していただいております。これから、地域協議会が本当は、市の方としては10年間、期間限定で地域協議会を行いましたけれども、色々ありまして5年間だけ、政府の方と言いますか、そちらの方で、まだ、5年間の猶予という事ありますので、石狩市も地域協議会からの要望に答えていただいて、5年間延長という事になりました。でも、これは、5年間延長ですから、その後は無いだろうと私は予測しているのですが、でも、この地域協議会に関わる地域の事を行っていくのは、やはり基本的には地域住民を取りまとめている自治会だろうという風に思っております。ですから、この地域協議会と自治会は更に、連携を深めながら、5年後どちらになっても地域が住みやすいという、そういう厚田ならではの地域を作っていく為には、これから地域協議会と五連が更に、この地域の事を考えていくというテーブルになるべく出ていただきながら、密接な関係にしていきたいと私は希望しております。あまり、私の挨拶が長くなりますと、折角の皆さん達のご意見を聞きそびれてしまいますので、今日は、本当に一番、農家としては忙しい、或いは、漁業としては一番良い季節で忙しいところ、地域の為にお集まりいただきましてありがとうございます。お礼に代えて、会長の挨拶に致しますので、よろしくお願い致します。

それでは、地域活動団体の活動について、開催の経緯も含めまして、相原主幹の方からお願い致します。

相原主幹： 皆さんお晩でございます。地域振興課の相原です。まず、今日、この地域協議会にお集まりいただきました皆さんに、経緯を少々ご説明申し上げたいと思います。

まず、昨年、地域協議会の中で「住民主体による新たな地域づくり」と題しまして、地

域住民を巻き込む為には、どんな方法が良いかという事を色々、協議してもらいました。その中で、例えば、イベントを行うのに曜日が、各団体さんと重なってしまったりとか、そういう事がありまして、学校行事を含めて、まず、行事の一覧表を作った方が良いのではないかという事で、皆さんのお手元の方に、「厚田ごよみ」というのがあるかと思いますが、これの制作をお正月明けからやってきました。これを作っていきますと、色んな団体さんの活動というのが見えて参ります。その中で、各活動をされている色々な団体がありますけれども、その団体さんから、今の活動の状況を是非、お聞きしたいという事でありまして、まず、団体さんの会長さんの方へ、今日、ご案内をしております。それから、佐藤会長のご挨拶の中にもありましたが、地域協議会としまして、各自治会さん、町内会さん、それから各団体さんとの距離を縮めて、これからも活動をしていきたいという事がありまして、是非、今回は団体さんの活動の状況が中心となるんですけれども、それを中心にした意見交換を行い、その中で、自治会さんにも団体さんがこういう活動をしているという事をご承知いただきたいし、逆に自治会さんもこれから活動を色々される中で、各団体さんのご協力を、こう得たいという事もあるかと思いますが、その辺の情報共有や意見交換をという事で、皆様にご案内を申し上げております。

この後は、各団体の会長様の方から、A 4 縦の活動の「平成 26 年度 厚田区内 各団体活動報告」というのを、うちの方で取りまとめました。総会の資料をいただいたりとかして取りまとめましたので、これに詳しく書いてあると思いますが、これに基づき、ご説明いただくというようなところで、更にもう一枚、事務局の方で一覧にしたもので、僕の方でこれ、この報告を元に、軽くまとめてみましたので、こちらの方が見やすいかと思いますので、これも参考にお使いいただければと思います。では、早速ですが、団体の活動報告として、表紙を飾っております、「ゆめ倶楽部」の河合会長から口火を切っていただきたいと思います。

厚田区コミュニティ「ゆめ倶楽部」

河合保郎氏：
ゆめ倶楽部

厚田区コミュニティ「ゆめ倶楽部」の事業報告をさせていただきます。平成 18 年 10 月に「厚田区自治体育振興会」を設立致しまして、25 名の会員でございます。秋と冬に事業を実施して参りまして、平成 19 年に地域協議会の委員の皆様のご協力により、地域振興基金を 3 年間、「スポーツと食の体験」で、半額を交付金としていただきました。行政、自治会、各団体の皆さんの協力によりまして、厚田区民三大スポーツレクが定着してきました。そして、21 年度の冬は、石狩市民全体の交流を含めた、石狩冬祭りを石狩青年協議会の会議所の皆さんと協働で開催し、二日間で 5,000 名の方が、旧厚田スキー場へ来ていただきました。その事が、今後の地域活動に繋がっていくものと思います。24 年度より、厚田サンセットヒルフェスティバルを四団体の共同で実施し、25 年度には、夕日の丘ピアガーデン、厚田区カローリング大会も実施し、四大スポーツが定着しております。会の名前を、「厚田区コミュニティ「ゆめ倶楽部」」として、厚田区内外に故郷厚田を P R し、健康増進、地域間交流と親睦を深め、共通の目標を持って参加する事に全体意識の高揚を図って参りました。これからもこの事業と続けて参ります。今年度は、「ゆめ倶楽部」最初の事業となる『厚田区スポーツと食の体験』事業が、6 月 28 日日曜日 10 時から望来みなく野外広場にて開催します。

当団体は、合併後、新たな組織化を図り、今年で 10 年の節目を迎えた事で、今年度、当団体で行う各事業は、全て 10 周年の記念事業として、冠を付け実施しようと予算も例年より多く措置しております。26 日に開催するスポーツと食の体験事業も、様々なサプライズ

企画を実行委員会の中で検討し進めておりますので、今年度は、ゆめ倶楽部の事業に大いに期待をしていただきたいと思っていますところです。

さて、そんなわけで、今年度最初となる今回の『スポーツと食の体験』は、「祝 10 周年 今までありが 10（とう）！これから 10（充）実した活動を 10（展）開します！」と 10 を意識したテーマをなっております。

また、事業内容の詳細ですが、『スポーツレク系』の協議は、子供からお年寄りまで参加可能な、当事業定番の「玉入れ競技」、毎年恒例の「紙飛行機グランプリ」。

『食の広場』では、10 周年を記念した「餅つき大会」等の実施。

『味わいタイム』では、人気の手打ちそばや厚田こだわり隊が開発中の望来井のタレを使ったミニ望来井の試食や、漁協青年部のホタテ焼き、その他にも J A 女性部やはるにれの里による「しそジュース」や「しいたけ」、「パン」の販売なども予定しております。

是非、地域協議会の皆さん、自治会の皆さんの方々の参加並びに多くの区民への声かけをお願いし、私からの報告とします。どうぞよろしくお願い致します。

【一同より拍手】

佐藤会長： はいありがとうございます。

相原主幹： はいありがとうございます。質問等は、終わってからまとめて思っておりますので、続きましては、次のページにあります、「あつたの森支援の会「やまどり」」について、八木沼会長よろしくお願い致します。

あつたの森支援の会「やまどり」

八木沼久氏： ページにあるように、平成 20 年 3 月 2 日設立で会員が現在 47 名です。目的も書いてありますが、山づくりという事で、山に対する影響ですね。魚が獲れるとか、色んな多面的な目的で始めており、下草刈りと植栽という事で重労働なのですが、設立以来、皆さん本当に、飽きもしないで、頑張ってくれております。その内に、仕事がだんだん、植栽が多くなると仕事がだんだん多くなってきたので、この中にある 5 月の流れ橋架けは、今年からやらないようにしました。材料も腐りかけているので駄目で危ないという事で、今年から辞めました。あとの事は、全部やっております。仕事の量が、植栽する度に多くなりますので、なかなか大変で一番問題になるのは、後継者がいないという事なんですね。やっぱり、自分もこんなところでヨロヨロしながらしゃべらないとならないので、若い人が入って来ないというのが、一番の悩みです。そういう事で、まあ植栽や何かも石狩市の市役所の職員も一緒になって働いてくれているんですが、まあ、これからも本当に、各自そういう仕事ができるような人がいたら、一人でも多く、参加していただきたいと思います。ここに居る三人とも同じメンバーなんですよ。あとで、話の足りない部分は補足してくれると思いますので、私はこの辺で終わりたいと思います。よろしくお願い致します。

佐藤会長： はいありがとうございます。

【一同より拍手】

相原主幹： ありがとうございます。では、引き続きまして「NPO 法人 あつたライフサポートの

会」について、先日、ラジオにも出演された佐藤会長、よろしくお願い致します。

NPO法人 あつたライフサポートの会

佐藤会長：
ライフサポート

それでは私の方から、丁度、NPO法人になって二つの事業を行なっております。移送事業とそれから除雪の事業ですね。これは、やはりその高齢化してきますと、何処の地域もそうなんですけれども、足の問題とそれから冬の除雪の問題がどうしても起きてくる訳ですね。ですからそれを皆さんでサポートしようと、それから今度は、お年寄りだけではなくて、例えば、妊婦さんだとか、或いは、何か怪我をして病院までの送り迎えが出来ないという人も含めてサポートをするという、所謂、福祉の向上と言うんでしょうか、日常生活を支援するという目的を持っております。現在のところ、利用者数は558名。それから除雪の方は、依頼件数17件で延べにしたら大体80時間という事になっております。そこで、それは今、八木沼会長の方からも言われましたように、問題は後継者の問題なんです。サポーターがだんだん高齢化してきて、実は自分がサポートしてもらわなければならない年齢でサポーターになっているというのは、ちょっとこれも、過疎化して高齢化してくる地域の特色かなと思うんですけれども、何て言ったって、ハンデを握りますので、危険を伴いますので、この後継者の問題というのは、これから大きくなってくると思っております。将来的には、これはその「あつたライフサポートの会」だけでは、なかなか支援出来なくなるという事で、これに代わる「地域交通」という事を今、考えております。ですから、私達サポーターはより良いサポートをこれから受けれるように、準備をするという段階に入ってきているのではないかという風に思います。

それから近々の事です、先ほど、河合会長から言われました「コミュニティゆめ倶楽部」のスポーツと食の体験の6月28日ですが、ご高齢の方で是非、出席したいという方は、ライフサポートの会がサポートをするという風にしたいと思っておりますという事で、まだまだ、年の割りは元気な人達の集まりのライフサポートの会からのご報告でありました。

【一同より拍手】

相原主幹：

ありがとうございます。引き続きまして、「厚田資料室サポートの会」という事で、この協議会の委員でもあります、大黒会長よろしくお願い致します。

厚田資料室サポートの会

大黒委員：
資料室サポート

厚田の資料室ですけど、私が生涯学習アドバイザーの時に担当したんですね。良くあそこに行ったのですが、なかなかお客さんが入らないんですね。何故かという、やはり総合的に農業、林業、水産業で、バーっとやっているだけで、何か魅力が無かったの、ちょっとした有名な戸田さんだとか、佐藤松太郎さんだったり、総合的なそういう展示だったら駄目だと、年間70何人とかは来たんですけど、それが300位になったんですね。何とかしなければならぬと終わった後に考えまして、やっぱり有名人の三人を選んで、そしてポイントを押さえて展示にしようという事で、高田課長と良く話し合っ、そして今まであった事を、発足の小学校のあそこに置いてですね、そのポイントになる物を持って来て、そして四つに別けて、有名人の四つに別けて展示をしました。そうしたらですね、案の定、入館者が多くなり、3,000人位になりましたね。始めは1,000人位でしたけれども、2年は3,000人、そして去年は2,600人位になりましたけれども、36万位は儲けているんですけれども、これは、皆さん、戸田さんとの関係の連携とか、それから色んな連携

があって出来た部分ですね。これからもそういう連携を持ってやりたいと思いますが、ただ、いつも思うんですけども、厚田に住んでいる人がなかなか見に来ないんですね。もうあんな所は見なくても解るという感じなんでしょうか。なかなかあそこまで歩いて行くのも面倒臭いのかも知れませんが、もう少し、地元を愛する展示をしたいとこれからも思っております。特に、吉葉山とか、あぁいう資料が無いんですね。それから佐藤松太郎とか、そういう展示をまた、今年も工夫しながらやろうとしております。是非、何か資料がありましたら教えて下さい。そうすると、私達もあれしますので、今後共、よろしくお願い致します。

【一同より拍手】

相原主幹

ありがとうございます。次のページの「地域教育分科会」の活動が載っておりますけれども、この会は、今、深く選考をして活動しておりますので、今日は、申し訳ないですけれども、割愛をさせていただきたいと思います。

引き続きまして、「厚田アクアレーン実行委員会」で多方面で活躍をされております、大黒委員長、再びよろしくお願い致します。

厚田アクアレーン実行委員会

大黒委員：
アクアレーン

厚田アクアレーンという事で、厚田というのは有名なんですね。札幌でも厚田と言ったら、厚田村だと言って、随分と知っていますね。私、根室に行って、仲間に聞いたんですけど、厚田と言ったら、おっ厚床かと、あそこの近くに厚田、厚床ってあるんですね。いやいや、厚田だよと言ったら、厚田って知っていると言って、その位有名なんですね。元々、鯨の獲れる所だべという風に有名な所です。で、厚田で何で水彩画展をやるんだという事を良く言われます。札幌で展覧会がバンバンをやっているのに、何でこんな地域でやるんだと、これがミソで田舎だから目立つんですね。変わった事をやらないと駄目なんですよ。そして、今までの漁業に対する感謝ですね。海に対する感謝の気持ちとか、そういう感情を出さなかったら、そういう展覧会や何かは出来ないという事で、一応、これも事務局と色々話し合いをやったんですよ。そうしたら、一回目が大成功だったんですね。選挙でも同じだと思うんですけど、2回目って大変なんですよ。ちょっと数が減りまして、それでも100名近く、応募がありましたけれども、今度は、第3回目なんですよ。平成28年度には、また、延びると思いますけども、ただ、ここも、厚田の人が参加しないんですね。あまり見に来ないんです。やっぱりのんびりしてるんですね。厚田の人というか、そういう刺激に順応しないというか、頑固なところがあるんですね。新しいものになると、何かとこうケチを付けるような人もいます。厳しく注意してなんばしに来た人もいました。びっくらこいたんですが、そういう元気のある人は、素晴らしいと思うんですけど、やっぱり様子を見ているんですね。どういう事をやっているか。是非、今後共、中学生・学生・それから青年達を巻き込んで、今度、幅広くやりたいと思いますよね。老化してますから。だから、今後は、続けたいと思いますんで、お力を貸してください。是非、よろしくお願い致します。特に議員の方、よろしくお願い致します。以上です。

【一同より拍手】

相原主幹： ありがとうございます。では、取りをお願いします。「厚田こだわり隊」今日は、吉田副隊長がいらしておりますので、吉田副隊長、宜しくお願いいたします。

厚田こだわり隊

吉田一男氏： 皆さんお晩でございます。本当は、隊長が来て細かく説明すれば良いんですけども、私はちょっと、そこまでいかなと思いますけど、地域協議会のメンバーの中に、半分位、うちの「こだわり隊」という隊員になっています。そんな事からですね、まあ、説明すると、「アクアレール」あの、「ゆめ倶楽部」なのか、「こだわり隊」なのか、もう色々あるんですよね。そういうどっちか、こっちかという事で、まあ「こだわり隊」の目的からいくとですね、最後に、新たな地域活性化に取り組むというか、「農産物」、「魚介類」の直売事業に取り組んだという事で、平成24年から、こう出発した訳でございますけれども、去年は、200万円の売り上げが、農産物で200万円の売り上げを見込んでいたという事から、昨年とその前の年からですね、集荷と完全買取、農家からは、完全買取りして販売をする。それから、始めのうちは、ボランティアを募って、売り子をやっていたんですけども、去年はちょっとですけども、パート的な最低賃金を払って売っていただいた。こういう事からですね、農産物につきまして200万を超えたという事でございます。生産者が27名、うち会員が6名でございまして、会員数は36名いるんですけども、農産物の販売につきましては、延べ人員が179名の方々にボランティアも含めて、協力していただいたという事でございます。昨年、一昨年からとスタンプカードの導入などを行ないまして、まあ、1万円を超えるという事で、地元厚田の人でも、1万円を超える人が出ております。まあ、1万円買っていただくと500円のスタンプカードという事で、500円の農産物を提供するという事で、それについても、効果が出ているのかなと思います。また、スタンプラリーも実施致しまして、各ポイントにスタンプラリーの判をもらって、投函していただくという事で、これは、札幌だとか、江別とか、いろんな所から来た人が、投函していただいて抽選で、厚田の特産品をいただくという事でございます。農産物の直売ばかりでなく、魚介類の関係につきましても、今、若手の漁業者が2名入って来てますし、また、古い漁業者もおりますので、これらは、魚介類についても特産品を作るなり、販売をしていきたいなという風に思っています。9月に、大体この産直の分は終わるんですけども、イベントに出るのは、非常に忙しい「こだわり隊」でございます。「こだわり隊」の名前を広める為に、まあ、北海道は勿論ですけど、「こだわり隊」という「字」に、こだわっておりまして、去年は、ここに、看板もありますけど、ブログで無く、「こだわり隊」の作っております。こういうものが、今年はまた、変わるとそうでございますけど、若干進化していくという事でございます。まあ、この事から今年に向けてはですね、地域協議会のご理解をいただきまして、基金を少しだけ使わしていきたいなという風に思っております。いつも、地域協議会の皆様、そして自治会の皆様から応援していただいて、何とかもう少し、大きくなって行って、やがては1億円位の販売をという事で、石狩のとれのさとは1億円を超えておりますので、そんな大それた事も考えておりますけども、やっぱり、小山委員さんが、今、販売班の班長でございまして、今日も、何とかしてですね、にんじんを提供したいという事で、にんじんを植えたり、こだわり隊の畑もです。そんな事から、今年はもう飛躍の年だなと思いますし、また、将来には何か「道の駅」的なものもありますので、頑張っていきたいなという風に思います。あと、ここの資料にもありますので、ご覧いただけるよう思います。今後とも、どうぞ宜しくお願いしたいと思います。以上で終わります。

【一同より拍手】

相原主幹： ありがとうございます。この活動報告の、文字には表れていないリアルなお話を色々お聞き出来て、大変ありがたいなと思います。この後、質問とかですね、この辺どうなっているんだろうとか、どんな事出来るんだろうというような、意見交換を含めて進行をお願いしたいと思いますので、佐藤会長、宜しくお願いします。

佐藤会長： はい、それじゃ、今、活動報告をしていただきました、それぞれの会の代表の方に感謝申し上げます。ありがとうございます。これからは、今の活動報告に向けての質疑、質問でも良いですし、或いは、ご意見でもよろしいです。これからそれを更に、こう皆で地域を盛り上げながら、それを発展させていこうという、積極的なご意見でも結構ですから、ご自由に皆さん方からご意見いただきたいという風に思います。

吉田一男氏： 会長それから。

こだわり隊

佐藤会長： はいどうぞ。

吉田一男氏： 報告じゃないんですけども、本年度 27 年度の活動に向けて、皆さんにご披露したいなと思って、資金の関係なんですけども、実は、望来豚の話が先ほどの「桜祭り」の時、出て来ましたが、まあ、「望来豚」をどうにかしてブランド化したいという事で、「望来井」という「こだわり隊」では、望来豚の事を「望来井」という井にしております。それで昨年から、この「望来井」に合うタレをどうしても作成したいという事で、まあ、ベルだとか色々ありますが、それじゃなく、「こだわり隊」で作りたいという事で、タレ業者の「ソラチ」さんに依頼をしまして、なんとか今、今年はこれでいこうという目途と良いですか、見通しが立ちました。それで、これから望来豚の「望来井」は、このタレでいくよという事で、作るって言っても、20 リットルや 30 リットルじゃどうもならないので、200 リットル作るんです。200 リッターのワンスパンで作るものですから、このタレにつきましては、「こだわり隊」では、70 リットルから 100 リットル位しか消費出来ないものがあります。余った分はどうするんだという事になりますけれども、何とか良い事であれば、区内の人達に買っていただくと。これは、「望来井」に合うタレばかりじゃないんです。色々な物に使えるタレを開発しております。そんな事で、買ってもらうっていうのは、ちょっとアレですけども、皆さんに賞味願い良ければ、提供出来るのかなと思ってます。そんな事で、この「オータムフェスト」或いは、「厚田ふるさとあきあじ祭り」など、そういうものに「望来井」を出しますので、その時にはご賞味いただき、旨かった、旨くないよと言っていたらと思います。それから、今まで販売しておりました販売所ですけれども、厚田石油で鈴木さんの所なんですけれども、今年からですね、あそこに直売所プラス、カットだとか色々なものの衛生をきちんとして、保健所の許可を取り、メロンだとか色々なものを提供出来る、カットしたものを提供出来るものをやりたいなという事で、今、下水道が入っていないんですから、下水道料金を払いまして、設備していただきたいなという事で、テントを赤字覚悟で3棟買いまして、「こだわり隊」で、備品を持つという事で冷蔵庫、冷凍庫ですね。これは、地域協議会の皆さんのご理解を得て、4分の3の補助で、4分の1は私達が負担しなければならないんです。100 万位、この負担、全部しなければ

なんないんですよ。これを利益で上げるっていうのは大変な部分があるものですから、どうか応援していただければと、これは27年度の事業の分で、今、皆さんにお話したのは、進化致しますので、どうか一つよろしくお願い致します。

佐藤会長： はい、了解致しました。そのタレは、もう今年、皆で使って、タレ無くなるという位まで使っちゃおう。本当、実は美味しいタレです、何回も試食してね、「望来井」食べるの嫌だっという位。はいご苦労様です。

渡部主査： 会長、ちょっといいですか。

佐藤会長： はいどうぞ。

渡部主査： 今、吉田副隊長から説明ありましたが、地域へのお披露目を「ゆめ倶楽部」さんをお願いし、場所をお借りし、先ほど説明ありました「厚田区スポーツ食の体験」でお披露目する事になっておりますので、是非、参加していただきたいと思います。そこで、お願いがあります。試食は出来ますので、アンケートにご協力をよろしくお願いします。

佐藤会長： という事で、沢山の人に来ていただいて、「望来井」は美味しいと言っていただいて、「ブランド化」する。
あと、ご意見ございませんでしょうか。

八木沼久氏： 相談があるんだけど、去年も言ったと思うんだけど、皆さん、私以外はみんな説明
やまどり が上手なんだけど、更に、これ写真なんかあるけど、画面を見ながら、昔の者なので何て言ったら良いか解らないけど、“見せる・目で観る・耳で聞く”という両方を是非、やっていただきたい。こんなに団体あるんだからね、お互いに、裏から金を出し合っても、良いんでないかというような感じはするんだけどね。

佐藤会長： そうですね。各団体の活動を、映像としてやっというて、それで見えていただきながら説明をするという事で、来年からそうしましょう。

高田課長： ちょっと良いですかね。

佐藤会長： はいどうぞ。

高田課長： 支所としても、やっぱりそういうDVDを作って、6団体、7団体の事をまとめておくと、まあ、こんな活動をしているという事を地域の人もそうですし、地域外の方にも説明出来るんじゃないかという事で、ちょっと今年度、もしかしたら地元には大学が無いんですけども、市外の江別の大学とちょっと交流を深めてまして、そこでそういうようなものを作った経験があるというお話を、たまたま昨日、そういう懇談があったんですけども、そういう話しも聞いているので、そういうところを活用したりですとか、今年度は、全くそういう予算を取っていないので、お金を出して頼むという事は出来ないと思うんですけども、極力、そういう繋がりを持ちながら、厚田の事も知っていただきつつ、そういうものを残してもらったり、考えているところなんです。今年、ここで間違いなく作りま

すよというお話しは出来ないんですけども、そういう事に取り組みたいという事は、支所内でも、内部で予定を立てておりますので、期待をしていただきつつ、出来るかどうかというところなんです、そういう方向に向けて、動き始めるという事だけは、みなさんにもお伝え出来るんですが、そういう方向で進めていきたいと思いますので、是非、来年は、そういう映像で出来るように何とかやっていきたいなという風に思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

佐藤会長： 高田課長は、結構、謙虚ですから出来ると約束しないですよ。でも、来年はきっとそういう風になっていると思います。

それではその他、何かご意見ございませんか。

先ほどの補足では無いのですが、このレジメの中にある地域教育分科会は、活動を休止し、深く選考しているという紹介をいただきました。これは、この地域協議会の中の分科会なんです。独立した組織や団体では無いんです。そこで今、石狩市としては厚田区に小学校一校、中学校を一校という事で、その統合をどうするかという事を、大きくその回を二回に亘って行ないまして、四月の初めに教育長にその意見書を答申致しました。そういう事もあったものですから、この分科会というのは、地域の人の要するに、この地域協議会の委員の人達で構成をした分科会なものですから、色々そういうものが動いておりますので、ちょっと個人的なといいますか、分科会としての活動を辞めて、私は、その統合の分科会の座長を引き受けたものですから、そういう意味も含めて、今、これは活動を休止しているという事です。改めて、石狩市教育委員会や石狩市の議会の方で場所も決まり、それが決定した段階で、活動を再開したいという風に思っております。

あと何かご意見はございませんか。それじゃ、先ほど「やまどりの会」の八木沼会長からも言われましたように、私達も実は、解り易いように映像を使うけれども、実は、これは、我々だけでは無く、この厚田区の地域の活動を広く知っていただくという意味も含めて、そういうもののDVD化を今年は少し、力を入れて地域協議会としてもですね、それを支援しながらやっていきたいという風に思っております。

よろしいでしょうか主幹。

相原主幹： そうですね。

佐藤会長： まだ時間はありますので、今、各厚田区の組織の代表の方から説明がありましたけれども、今日は、五連の会長さんも来ておりますので、それぞれの地域の事情ですとか、そういう要望ですとかございましたら、まだまだ時間がありますので、五連の会長さん、どなたからでも構いませんので、ご意見がございましたら、是非、お聞きしたいと思うんですけども、どうでしょうか。

長氏（古潭）： 土門会長、私の方からよろしいでしょうか。

土門氏（厚田）： 良いですよ。

長氏（古潭）： それでは私の方から、会長の代わりに発言をさせていただきますけど、実は、古潭は特にそうなんですけど、高齢化が激しくて、役員も本当に年寄りばかりなんですよ。他の自治会でもほとんどそういう状況で、今日の厚田区の各団体の発言を聞いていまして、

やっぱり後継者の問題があるよとか、若い人の参加が欲しいとか、そういう話しがたくさんありましたよね。こだわり隊の方では、若い人がどれ位入られて、盛んに活動しているよという事で、良い事だと思いましたが、各地区に市の職員を貼り付けて、地域振興、うんぬんかんぬんという事があったような記憶がしているんですけど、もう1年が経つんですけど、地域おこし協力隊の方が、今も厚田区の中に2名入っている訳ですが、先日、ちょっとラジオを聞いていましたら、総務省でも地域おこし協力隊が凄く成果があるという事で、増員をしたいというような事で発表をしていましたので、出来れば厚田区に五つの自治会がありますので、そこに一人ずつとかという形で、地域に若い人に担当をしてもらって、地域をもうちょっと頑張れよというような形でやっていただければ良いのかなというような気がしておりますので、一年間の経験を行政の方も色々とされたと思いますし、地域の方も色んな形で頑張ってきましたので、是非、そういう意味では総務省の方から、400万円の金が出る訳ですから、それが言ってみれば、一人当たり400万円の金が厚田に落ちる訳ですから、極端に言えば、それかける5とか10という金になっていきますので、是非、そういうような形で若い人を他所から入れて、地域振興を図っていただきたいというのが、もう、古潭なんかはギリギリの状態ですので、そんな事でお願いしたいと思います。

佐藤会長： 実はこの厚田区の中で、高齢化率が一番高いのが古潭なんですね。

長氏（古潭）： そうなんです。

佐藤会長： 今、長さんがおっしゃっていた事柄も、地域協議会の中で検討をして、今、ご提案のあった地域おこし協力隊の問題ですとか、それからその、そういう高齢化の進んでいる所の活性化をどうするかという事ですよね。ですから、実はそれは、もっと広く言ってしまうと北海道の至る所で、そういう問題を抱えている訳ですよね。ですから、それは一つの古潭がモデルになるような、要するに高齢化、過疎化の先進地という事ですから、そこで問題がある程度まで解決出来れば、他もそのモデルを参照するというか、真似るという事も可能ですから、地域協議会でも是非、それを問題というかテーマにして検討したいという風に思います。

高田課長： あとですね、五連の会議の中で、これから地域を活性化する為には、やっぱり自治会との密接な連携というのが、もっとより深くならないと出来なんじゃないかとお話しをしたとおり、そういう、例えば、各地区におこし協力隊を導入したいんだというところを、地域の中でも、どういう風に活用したいとか、そういうような事を具体的に話してもらえば、かなり説得力のある導入に繋がると思うんですよね。だから、そこも我々と協働で進めながら、その目標に向かってやっていくような、そういうような取り組みを今後していければなという風に思っておりますので、お互いに情報交換をしながら、やっていけたらなという風に思いますので、よろしく願いしたいと思います。

佐藤会長 はいそうですね。よろしいでしょうか。他にご意見はございませんでしょうか。五連の会長さん、何かご意見はありませんか。

土門氏（厚田）： 皆さんも知っていると思いますけれども、五連の会長で、一年に一回、田岡市長との懇

談をやっている訳ですけども、その前に、各地域の連合の会長方が集まって、その地域でどういう事が出来るという事で、毎年、市に要請をしていくかという事で、市に要請をしているんですよ。それが、今まではちょっと遅かったんですけども、去年からは、予算の関係も絡むところもあるので、早くやろうという事で、去年からはちょっと市の方には早く要望を出しておりますけれども、その地域で色んな要望があれば、各地区の会長の方に連絡を取っていただいて、その出てきたものが連合の会長会議の時に、それを要請している訳ですので、その辺よろしくお願い致します。市の方も、色々どの市町村も同じだと思うんですけど、かなり財政的には厳しいものはあるし、厚田とか浜益の場合でも、特に高齢化と少子化の拍車が掛かるような感じにして、もう少なくなっているんで、特に、石狩市も浜益の事については、考えてはもらっているんですけども、これから先というのは、非常に厳しい面があると思うんです。今日も、五連の会長の会議で話があったんですけども、お蔭様で厚田にも「道の駅」が出来るという事で、市の方も地域の方々の協力を得ながら、本当に、魅力ある「道の駅」が出来ればなと思っておりますので、よろしくお願い致します。

佐藤会長： それじゃ委員の方々も含めて、その他何かありましたらと思いますが、よろしいでしょうか。それでは、今日の五連との自治会との情報共有、意見交換会の議題を終わらせていただきます。

相原主幹： 1点言い忘れておりました。先ほど、皆さんの方にご紹介をした「厚田ごよみ」ですが、浜益のカレンダーには遠く及ばないんですけども、厚田区でこんな動きがあるんだなという事をちょっと一覧にしたものなのですが、これにつきましては、一応、各団体さんとか高齢者倶楽部さんも含めて、それから町内会の会長さん辺りまではお渡しして、こういう動きがありますので、一つ、協力をお願い致しますという形でご案内したいと思いますので、よろしくお願い致します。

伊藤氏（発足）： これは良いわ。

相原主幹： ありがとうございます。

伊藤氏（発足）： 全戸にもらうと、みんな喜ぶかも知れない。

佐藤会長： 行事が重なってしまう事があるんです。

伊藤氏（発足）： そうそう。

佐藤会長： それをなるべく早い時期に出して、それぞれで調整をしていただく。

伊藤氏（発足）： 厚田小学校の運動会がいつだろうとか、望来小学校の運動会がいつだろうというのが。

長氏（古潭）： そのこの地区の人は解るけれども、古潭は古潭の事を解っているし。

佐藤会長： そうですね。

長氏(古潭)： 古潭には小学校が無いから、運動会が無いというのは解っているけど。厚田がいつあるかとか、聚富がいつあるかというのは解らないですからね。これは良いと思いますね。

相原主幹： 一応、今回は初めてという事もありまして、町内会さんとか団体さんへの配布というのを考えた作りになっておりまして、この後、色々と練り込みをした中では、浜益と同じく全戸配布という形にはなろうかとは思っております。今回はテスト期間という形の中で、取扱いをさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

佐藤会長： それではまた、今の「厚田ごよみ」は来年、進化した形でお手元に届くのではないかと
いう風に思いますので、ご期待をして下さい。

6. その他

次回会議等の日程について

平成 27 年 7 月 3 日 (金) 18 : 30 ～ 望来コミセン みなくる

7. 閉会

平成 27 年 7 月 3 日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会
会 長 佐藤 勝彦